

第七回天神祭献詠短歌大賞 入賞・入選短歌

一般部門

- 大賞 ● 我が想い君へ届けとうたかたの水の都に銚流れ行く（金子瑞穂）
- 香川ヒサ賞 ● 西鶴も近松も觀し祭の燈今宵いくつの恋の焦がるる（凜七星）
- 加藤治郎賞 ● 父親の懐に身を委ねつつ三つ編みの子が眺める船渡御（大江美典）
- 高田ほのか賞 ● 着飾れば生者も死者も隔てなく天神祭の一夜楽しむ（田中晶）
- 商店連合会賞 ● 日本一ながい商店街あゆみたり天満宮の神馬に逢いに（東尾喜代美）
- 大阪天満宮賞 ● 樟脳の香り目に染む朝顔の浴衣祖母から母へ私へ（山田三夫）

一般部門入選歌

- 止まりては又二、三段と揺れのぼる布
団太鼓の宮入の灯は（宮本早苗）
- スーツより半被が似合う妹に天神様は
まろく微笑む（木野葛紗）
- からからとラムネ瓶ふる ビー玉は
とれないままで大人になった（逢）
- 神渡る川面に風の吹き来たりいまだ祭
の盛りなるらむ（雨委里）
- となり町までの一駅暮れなずむ窓は浴
衣のわれをはげます（泳二）
- 大川の篝火ゴッホの絵のごとく踊れば
夜空の花火に届く（中井聖子）
- 縁側でホテルをはなすふうわりと今な
らわかる明日のないこと（南野容子）
- まひるまに湯を立て入る祭りの日紅緒
嬉しき七つの子かな（鳥山有里子）
- 宵宮の堂島川はおこそかな川面となり
て銚を運べり（藤本るみ子）
- 船渡御の船にて驟雨にあひしこと三十
年経てなほ夫語る（川上美智子）
- 恙なく生きて今年の船渡御を見むと数
多の人に混じりぬ（川阪潤子）
- 参道の露店に並ぶお面らのどの表情に
も月光はおよぶ（瀬戸内光）
- 蝉の音掻き消すほどに凜とした浴衣姿
の君が立ってた（由貴）
- 押し寄せるヨイヨイヨイッ宮入りの神
輿に根付く白足袋の足（仲村芳美）
- 繰り返す災禍をこえて絶えずして祭り
は続く千代に八千代に（妹尾明美）
- 御輿ひく児童らの声静まりて参集殿に
小さき拍手（朔風）
- とどろける祭の太鼓吸われゆくめぐり
の稲田に集う祖先たち（幅尾茂隆）
- ひとり寝の夜も優しき負はれ來し縁日
の灯のあかを思へば（真篠未成）
- 起こし太鼓背中合わせで打ち鳴らす怒
涛のごとく賑い集めて（西野姍喜子）
- 遠く聞く祭囃子が風に揺れ妻も老いた
り我も老いたり（与太郎）
- たこ焼きの生地が型よりあふれ出て祭
の夜もいよたけなは（清水良郎）
- ほの白い空から響く音だけがビルの彼
方の祭りの気配（西岡加奈代）
- 縁日でわがままひとつ言わない子演じ
た私にりんご飴買う（麦野結香）
- 縁側を知らない私と縁側で育った君と
でスイカを食べる（小林理央）
- コスプレと浴衣姿が入り混じるわが故
郷の祭りの夜は（菊地 秀人）

子ども部門

- 大賞 ● うちあがる大きな花火は照らしてる僕らの町を僕の心を（香林魁海）
- 香川ヒサ賞 ● バス停に律儀に止まるバスの中なかなか着けない祭りを思う（山田達也）
- 加藤治郎賞 ● 夏の夜二人が歩くかげ映るかげの間にわたがしひとつ（高本梨央）
- 高田ほのか賞 ● ゆかた着てあなたを見つけ歩き出す笑うあなたをうちわであおぐ（三輪結菜）
- 商店連合会賞 ● 花火師の想いがこもった花火には数秒だけの命が宿る（横井優）
- 大阪天満宮賞 ● ちようちんを船にのせてる船渡御だ道真さんが見守ってるよ（朱示温）

子ども部門入選歌

- 浴衣きてにやける顔を手でなおし君が
待ってるあの公園へ（平井千聖）
- 打ち上がる火葉の匂いまたいつか君の
となりで思いたいたい（寺井優花）
- 大川で花火を見る家族達ゆかたはあ
おい花火に似合う（岡田ひより）
- 暗がり山車の提灯の灯りゆれいつも
と違う僕たちの街（藤本隼矢）
- ばあちゃんのしわしわの手で帯しめてじ
んべさん着て行く天神祭（脇本菜摘子）
- 妹の小さなうでをひきながらはずむ足
取り夜店への道（中野寿乃）
- かきごおり赤色より青色を花火にすか
して色つくりだす（中川頌梧）
- ドンとなり赤や黄色に咲きほこるすう
つと消えてまたドンとなる（東俊介）
- おみくじで大吉当たり喜んでその先の
道少しのだんき（坂口拓海）
- 浴衣着て裾がひらりとゆれたなら花火
のように恋が花咲く（江口未菜）
- 夏祭り花火師作る願い玉空にめがけて
みなに思いを（加賀谷剛）
- 夏の夜にひと際目立つにぎわいを作り
出すのは人の縁かな（金城栄二）
- 二日間昼からずっとかさもって宮入り
したら姉妹で写真（中島琳）
- 祖母宅の向かいに立ってるマンション
に映って見えた去年の花火（奥村栗）
- 夕空に薄く光る星ひとつそろそろ花火
の合図かな（田畑穂果）
- ゆらゆらと水中で舞う赤いキミ キミ
をすくったあの夏の夜（永田紅葉）
- 熱風と怒号の中の投げ頭中願人の数だ
け踊り暴れて（梶井裕貴）
- 浴衣着てわらうあの子は猫かぶり可愛
い顔でえものをさがす（中村日向子）
- 浴衣着て耳をすませばおぼちと聞こ
えてくるは線香花火（木村粹月）
- うでをくみ二人であるく出店にて連想
させるパーズンロード（中村優菜）
- みこしては男の人が大声で叫んでいる
と鳥肌が立つ（京野一心）
- 汗流したいこ鳴らすよどんと熱き
男の心なんだぜ（徳田樹）
- 大人たちみこしをかつきがんばるぞみん
ながんばれみんなみてるぞ（邨上鈴）
- ふわふわで頭におだんごおびしめて花
火のようなはじける浴衣（山口瑠奈）